

地域資源を活用した支援事例報告

～地域生きディへのつながりを通して～



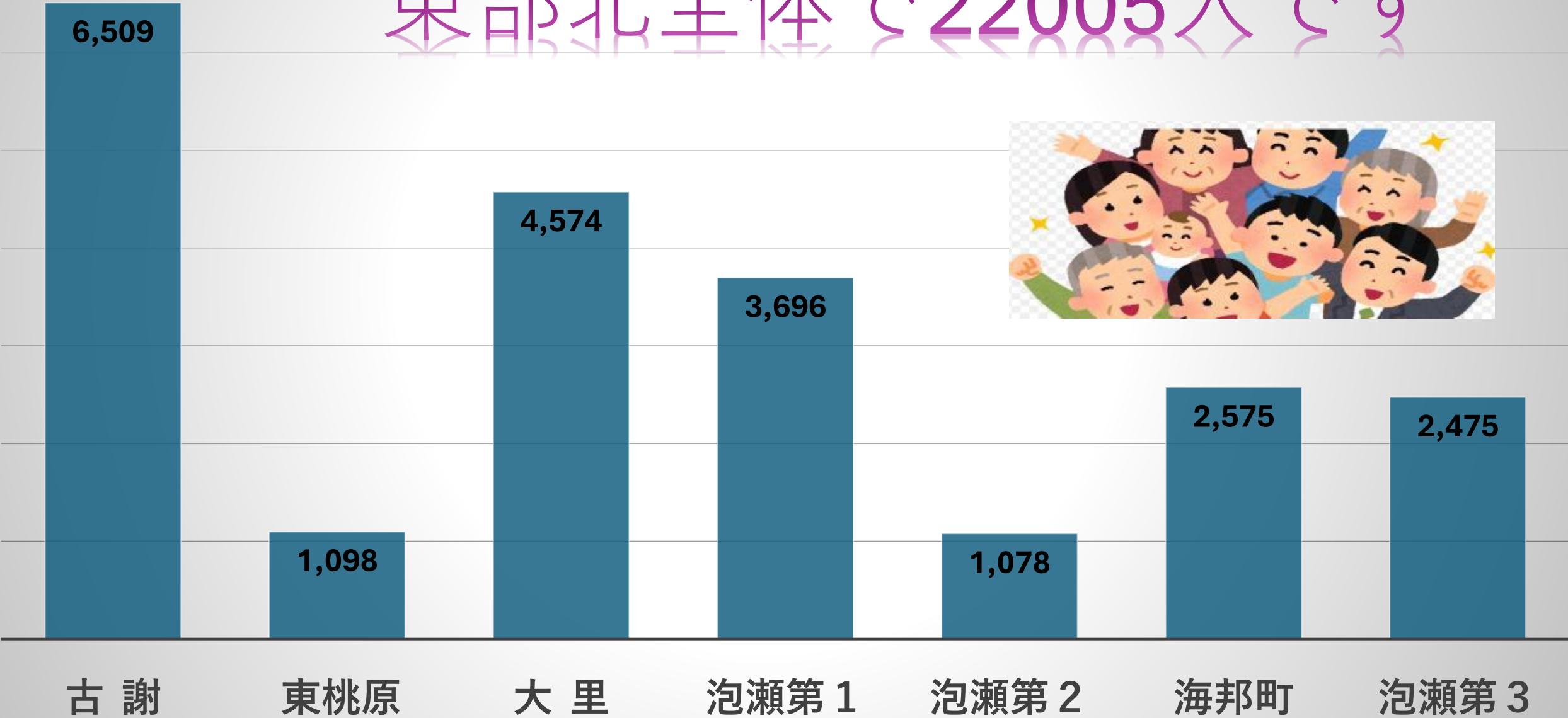
沖縄市地域包括支援センター東部北「愛聖」
主任介護支援専門員 久保田 勲
生活支援コーディネーター 伊良部貴博

沖縄市全体図



東部北の人口 2025年 4月

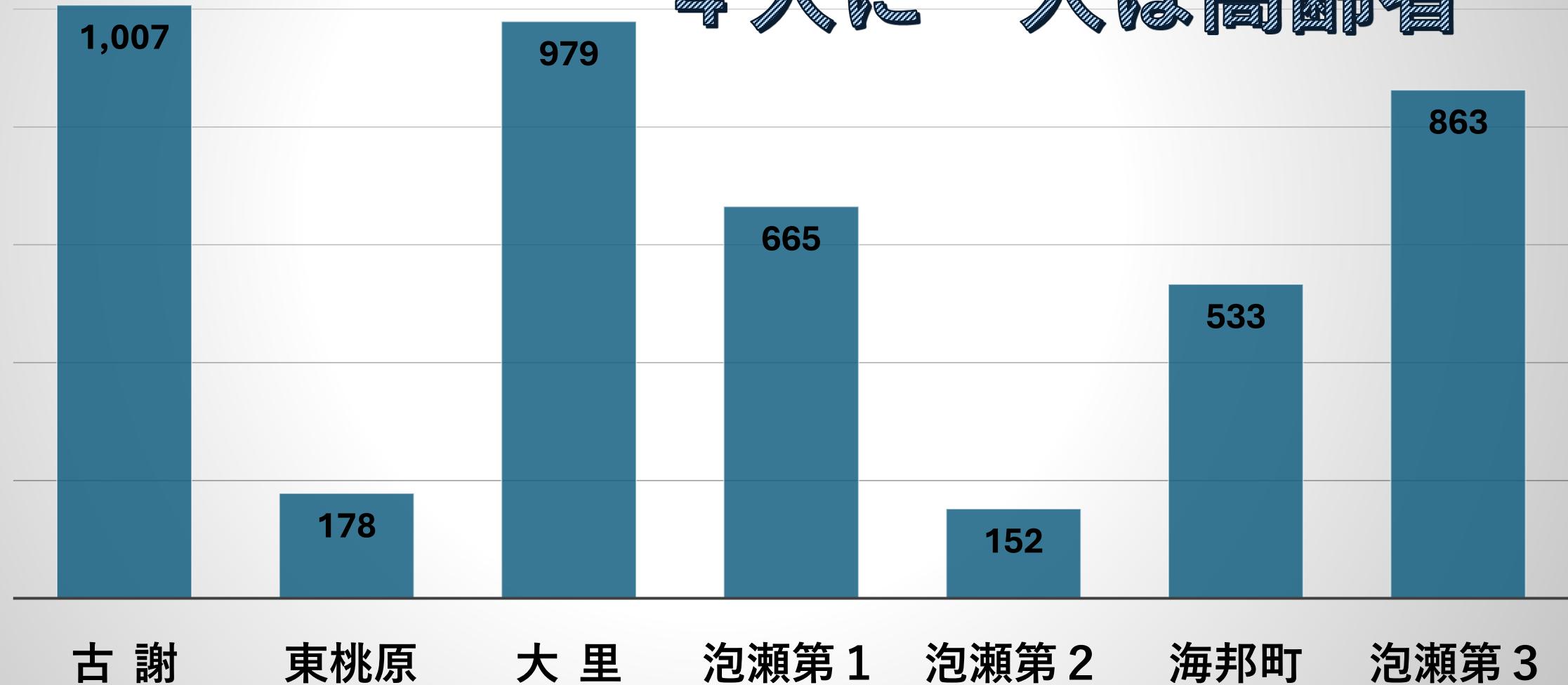
東部北全体で22005人です



高齢者数 2025年4月

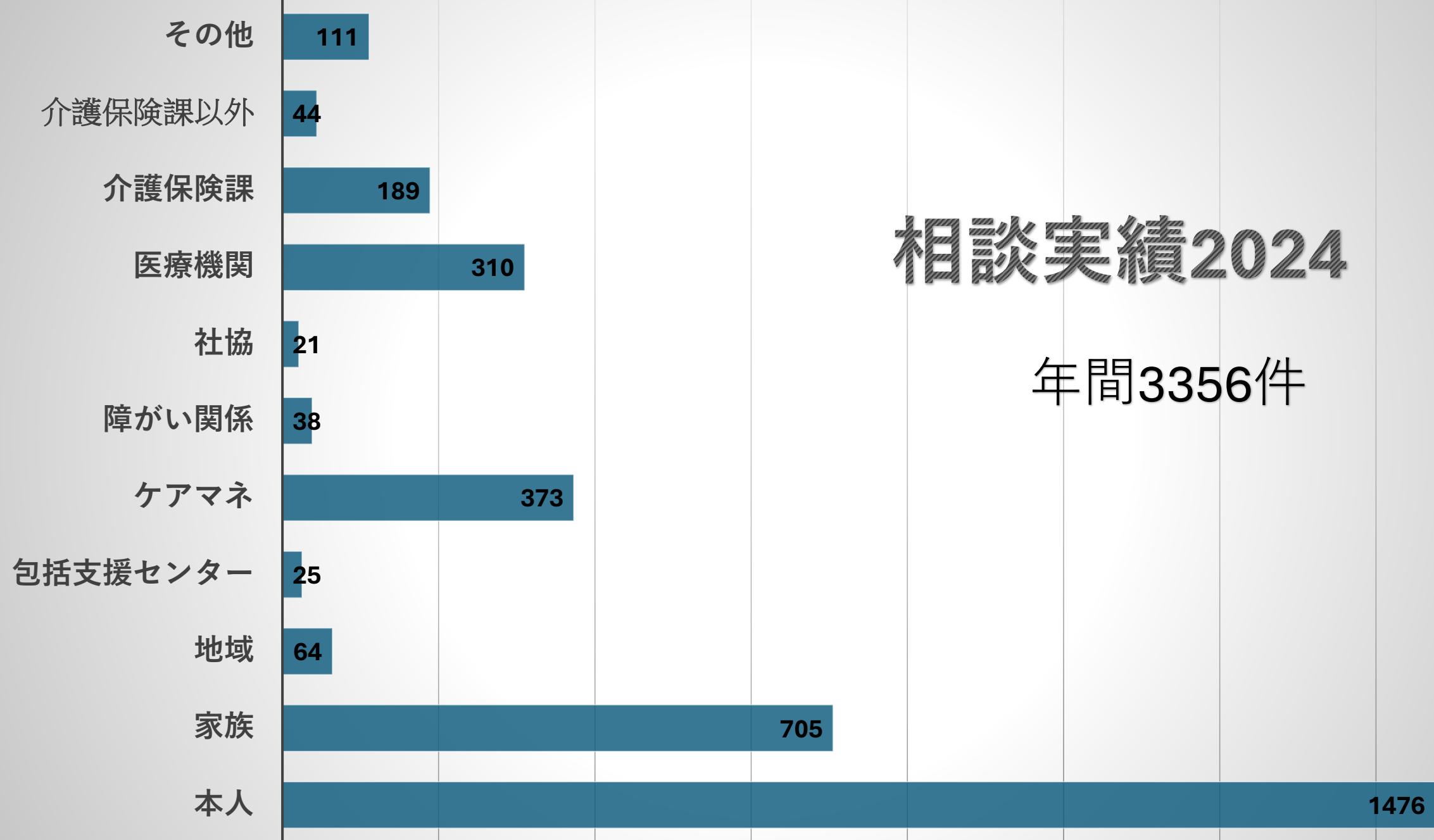
65歳以上の人口は4377人です

4人に一人は高齢者

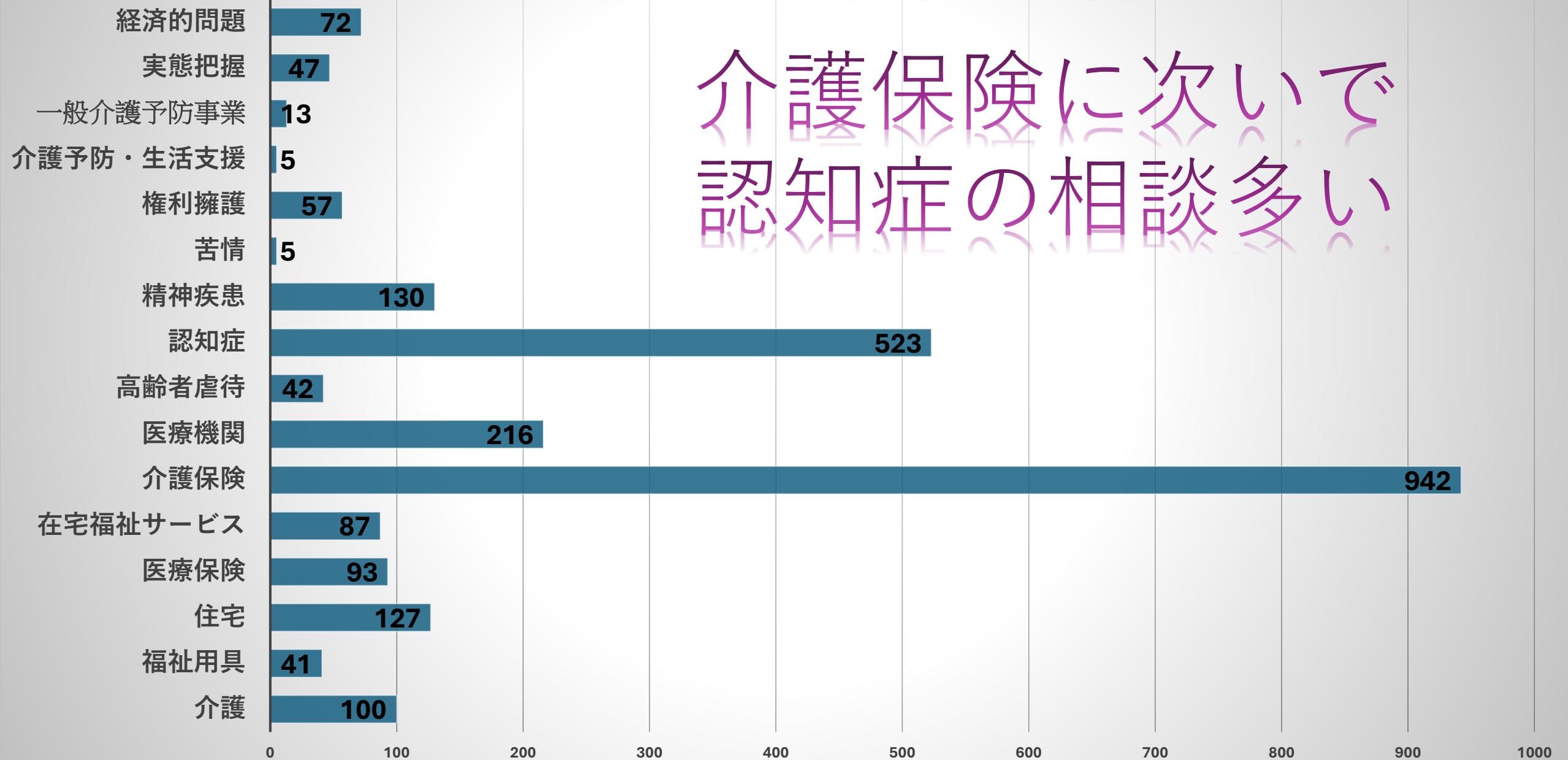


相談実績2024

年間3356件

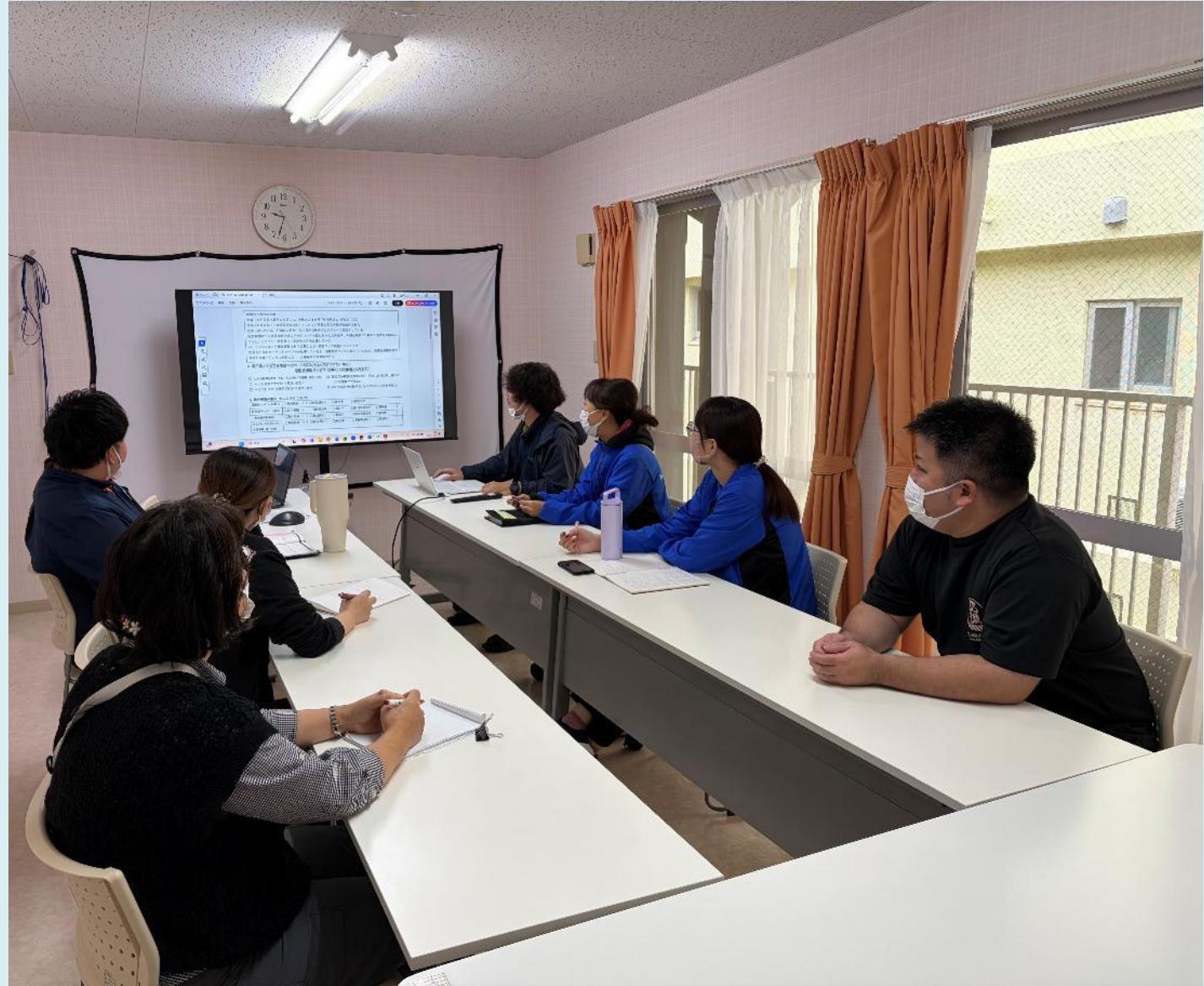


相談内容2025



相談支援体制について

- ・面談の際は本人、家族の意向、持病・受診状況・生活環境を丁寧に確認
- ・総合相談会議、サービス調整会議で情報共有
- ・多職種連携により支援の選択肢を広げる



事例概要

- 90代 女性
- 一人暮らし(近隣家族あり)
- 事業対象者
- 高血圧症治療中
- 子供、孫たち訪問あり、買い物など支援あり
- 数年前に他の地域より引越してきた



相談内容(孫からの相談)

- ・閉じこもりがちで心配
- ・デイサービスを利用したい
- ・本人の希望：同世代交流
- ・送迎のある場所



アセスメント結果

近隣の病院へはタクシーで通院可能

散歩も可能、身体状況は自立

地域交流に前向き

現時点では介護保険でのサービスは見送ってもいいのでは、

はじめのイメージとは違い生活面自立していそうだ、
他者交流参加へ積極的だ、移動が課題だな、



沖縄市介護予防・日常生活支援総合事業の内容

元気な方になるべく要介護状態にならないように、また、介護が必要な方もできるだけ**体の機能を維持・改善できる**ようにするための取り組みです。
生涯を通じて、住み慣れた地域で**いきいきと自分らしく暮らしを続ける**ために、あなたに合った介護予防に取組みましょう。

- スポーツジム
- 趣味活動
- 公民館等でのサークル活動
- 生活支援センター養成講座（ヘルパー事情所での就労）

- かりゆしシニアクラブ
- 市シルバー人材センター（就労、趣味活動等）

- 市社会福祉協議会の地域ボランティア活動
- ハローワーク（就労）

一般介護予防事業

対象：全ての高齢者

高齢者サロン・通いの場

住民が主体となって地域の公民館や集会所等で、介護予防体操や生きがいづくり活動を実施しています。



生きデイ

地域公民館において、健康指導や筋力向上の為の運動などを行います。（一部送迎あり）



高齢者いきがいづくり支援事業

陶芸や生け花、琉舞などの趣味活動や健康づくり教室を開催しています。（材料費は自費）

介護予防がんじゅうポイント制度

地域の介護事業所や高齢者サロン、高齢者宅等での、ボランティア活動に参加できます。1回の活動につき、1ポイント（100円相当）が付与されます。

地域リハビリテーション活動支援事業

介護予防の取り組みを強化するため、リハビリテーション専門職が自宅やサロン・通いの場、事業所などに訪問し、アドバイスや支援を行います。

高齢者パワーアップ教室（運動強度：弱～中）

筋力向上を目的とした運動を行い転倒予防に取り組みます。筋力向上の為の運動や栄養・口腔・認知に関する講話を行います。



高齢者元気教室（運動強度：中～強）



介護予防等把握事業

把握員が介護保険認定を受けていない高齢者宅を訪問し基本チェックリスト等を用いて結果に応じて必要なサービスや事業、地域活動を提案します。

サービス・活動事業

対象：基本チェックリスト該当者（事業対象者）、要支援1、2の方

短期集中予防サービス（通所型）「沖縄市かふう教室」

専門職が短期間集中的に（概ね3ヶ月間）個別性に応じて生活の自立や社会参加、生きがいに働きかけセルフマネジメントを獲得するための面談を中心とした教室です。



面談の様子

短期集中予防サービス（訪問型）「ハイサイおうちリハ」

専門職が短期間集中的に（概ね3ヶ月間）ご自宅に訪問し、生活面や移動の自立を目指します。また社会参加を目指し、閉じこもり予防に取り組みます。



買い物動作確認 屋外歩行の確認 生活動作確認

従前相当サービス（通所型・訪問型）

※従前相当通所型は継続的に
専門職の介入が必要な方のみ

訪問型サービスA

要支援1・2

介護予防サービス

- 訪問看護、住宅改修、福祉用具など

要介護1～5

介護サービス

目標を達成し、ステップアップへ

高

元気の度合い

低

【問合せ先】沖縄市役所 介護保険課 地域支援担当 電話：939-1212（内線3142・3143）

支援方針の検討

高齢者サロン、生きディを提案

本人が参加に前向き、本人、孫同意

SC連携し参加調整を依頼した。



SCより説明

本人と参加できる日程を確認し調整



生きディ参加の為、事前確認として市老連の
生きディ担当者に連絡。



当日、本人と同行し生きディ参加



まとめ

- ・生きディ等「通いの場」は高齢者の生活を支へ、社会的孤立の解消になる重要な資源である。
- ・自立度の高い方は本人の意欲があれば地域活動や日常生活支援総合事業を中心に支援可能な方もいる。
- ・つないだ後も支援が必要な際は調整ができるように関係者間の連携は大切である。
- ・今後も地域資源の活用と生活支援コーディネーター(SC)とさらに連携を密にしていく。

日頃の連携・協働に感謝



ご清聴ありがとうございました。

